

「コラペプ」摂取で床ずれ改善

新田ゼラチン、臨床試験で確認

介護対応食市場に拡販へ

新田ゼラチン(株)(東京都中央区)はこのほどコラーゲンペプチドを摂取すると褥瘡(じよくそう)の治癒の促進に働くことを二重盲検臨床試験で確認し、先月26・27日に福岡で開催された第13回日本褥瘡学会学術集会で発表した。

褥瘡とは一般的には「床ずれ」と呼ばれるもので、寝たきりなどになると、背中など身体とベッドの長期接触箇所が炎症などを起こし、その周辺組織が壊死してしま

う状態。かなりの重度になると筋肉や骨まで損傷される。試験結果を受けて同社では今後、介護対応食品市場にコラーゲンペプチドを拡販していきたい考えだ。

試験では同社の独自コラーゲンペプチド「コラペプPU」を使用した。中度から重度の褥瘡患者81名の被験者を同素材摂取群、プラセボ(デキストリン)摂取群の2群に分け、床ずれに対する標準的な措置を行いながら、それぞれ1日当たり

10g、16週間摂取してもらった。

その上で、摂取前後の褥瘡の差をPU、SH、P、S、S、Tといった褥瘡の国際評価方法のほか、写真撮影による傷の面積で評価したところ、同素材摂取群は評価のいずれにおいてもプラセボ群に比べて有意に改善。なかでもP、S、S、T評価では、「ベスト」ないし「ベター」な改善を示したのが同素材摂取群では75%に達したのに対し、プラセボ群は19%だったという。